

冬...「あれ?きこえない!」の時、チューブの結露かも。

結露って?

寒い外から暖かい室内へ入ったとき、温度差で、チューブが曇ったり、水滴がついたりすることです。

冷たい日に、暖房した部屋のサッシに水滴がつく症状が補聴器にも起きたと思ってください。

水滴がたまると、「音がきこえない」と、故障かと思える症状が出ます。

結露した水分は、チューブなどの曲がり角のところにたまることが多いですが、補聴器の外側ケースにつくこともあったり、見えないけど内部の機器につくこともあります。

こんな時に結露します

体外に露出している耳かけ型補聴器の場合によく起こります。

冬、補聴器は外気によって冷えています。その状態で、補聴器を耳に掛け、イヤモールドを耳に入れると、体温による湿った温かい空気がチューブに入ります。それが、チューブの中などで急に冷やされて結露します。結露が多くなると、チューブ内にたまって音の通り道をふさいでしまうことになります。

～ 結露しやすいときの一例 ～

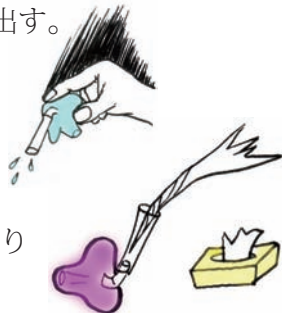
- ・朝一番に使い始めるとき
- ・外出先から、使わず冷え切った補聴器を暖かい室内に持ち込んだとき

※こんな時はすぐにスイッチを入れず、室内になじんでから使用すると良いです。

結露したときの対処



■補聴器からチューブを外して、振って水分を出す。

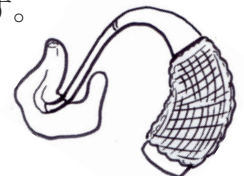


■ティッシュでこよりを作り吸い出す。



■イヤモールドブローアで、空気を送り、飛ばす。

■外部ケースの結露に対しては、汗対策用のカバーで保護します。

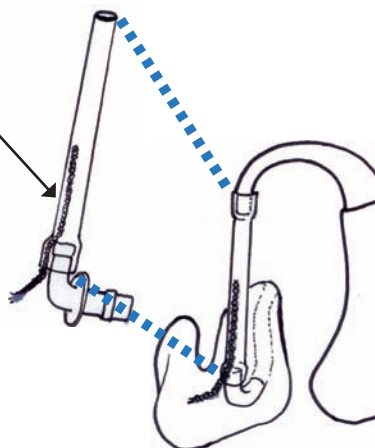


結露対策

■防滴チューブに取り替える。

チューブ内に糸の入ったものを買って取り替えるだけです。

チューブ内の結露した水分を吸収し、チューブの外に蒸発させてくれます。

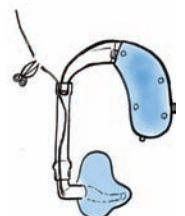


■自分でも作れます。チューブに木綿の糸を入れ、結露する水分を糸を通じて外に逃がします。

①補聴器からチューブをはずし、木綿糸を90度曲がっている所まで入れます。



②チューブより少し長めに糸を切り、チューブを補聴器に付けます。糸を外に出した状態でつなぎます。



冬の寒さ、乾燥、暖房器具…電池の性能が落ちます。

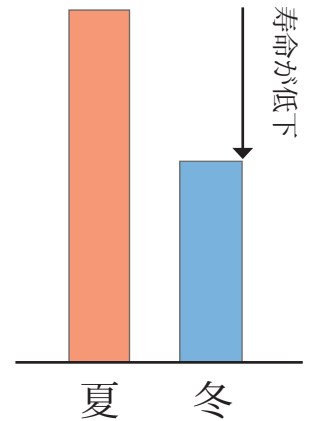
空気電池は、使用する環境で電池寿命が変化します。
これには、3つの理由があります。

冬は電池の働きが鈍くなると思って、
予備の電池を準備しておきましょう!

① 冬、温度が低下すると使用時間が短くなります。

気温20℃のときに比べ、気温5℃では約3分の1に使用時間が短くなるようです。

※充電式の電池の場合も、非常に冷たいところでは電池の性能が落ちることがあります。スケートやスキー、雪遊びのときは、予備の電池を持っていくように心掛けましょう。



② 乾燥によっても、電池の性能は変わってきます。乾燥する冬は、寒さと合わせて電池の性能を落とします。

空気電池にはアルカリ水溶液が入っています。その水分が蒸発して濃度が変わってしまうと化学反応（電気）が起こりにくくなり、十分効果が発揮できなくなります。

ですから、御承知のことでしょうが、補聴器や人工内耳のスピーチプロセッサを乾燥させる際は、電池は取り出してから、乾燥ケースに入れるように心掛けましょう。

酸素いっぱい!



③ 空気電池は、二酸化炭素に反応して劣化します。

石油やガストーブなど、火を使う暖房器具を使用した場合、二酸化炭素が多く出ます。この二酸化炭素で電池中の薬剤が劣化し、電気が起こりにくくなります。

体のためにも部屋の換気は、十分に行う必要がありますね。

寒いし、酸素は足りないし、乾燥してるし…
パワーが出ないよ…

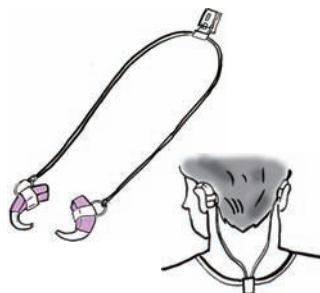


雪山、スキーのときは、補聴器にリテイナーを!

「スキーに行こうと思っていますが、補聴器はどうするのですか?」という質問がありました。

まずは、真っ白な雪の中に落として、なくさないことです。

幼児さんがつけているようなリテイナー（落下防止用具）やストラップを利用し、耳から外れたときも、ポロリと落とさないようにすると良いです。



ぴゅーぴゅーと吹雪く風の音、スキーでの滑走で風を切る音…補聴器で増幅し、騒音となることもあります。そんなときは、補聴器ごと耳を覆ってくれるサイズの防寒用耳カバーをしてみます。



情報

○フォナック FM補聴援助システムの上位機種が発売になりました。

○人工内耳に使用される東芝製空気亜鉛電池 (675SP) が生産販売終了になりました。
 今後は、バータ社製のものを御購入ください。



書籍紹介

■ 『からだに関わる日本語とその手話表現』

第1巻・第2巻

脇中 起余子 [著] 北大路書房
 定価各 2,300 円＋税

『よく似た日本語』に続く本。「頭をひねる」「目がない」「首がつながる」など、手話でどう表現するか迷います。このような慣用句を中心に、体の各部位の名称を用いた日本語の例を収録しています。第1巻は、首から上の部位。第2巻は首から下の部位を扱っています。



■ 『ことばのえじてん』

篠崎 晃一 [監修]
 小学館国語辞典編集部 [編集]
 小学館
 定価 3,570 円

一冊あると便利です。
 オールカラーで、約
 3,100 語収録。



■ 『リテラシーと聴覚障害』 <12月下旬刊行予定>

四日市 章 [編著]
 コレール社
 定価 2,800 円

日本語習得についての最先端の研究をまとめる。さまざまな情報・視聴覚機器の進展にあたり、読み書き能力の習得と運用 (リテラシー) の研究到達点を示す。

■ 『手話で生きたい』 乗富 秀人 [著] 著生活書院 定価 1,500 円＋税

ろう文化絵本。「デフアートとは? ろう者の言語である手話とろう文化をテーマにした絵のことです。欧米ではすでに普及していますが、日本では始まったばかりの分野です。」(背表紙より)

さらに作品を見たい方は、デフアート専用ホームページ「ギャラリー ノリトミ」へ。「手話」「ろう文化 (音のない世界)」のコントラストを表現した「デフアート」スタイルを日本で初公開するHPです。

<http://www17.ocn.ne.jp/~deafart/index.html>

刊行物紹介

『聾学校におけるコミュニケーション手段に関する研究 —手話を用いた指導法と教材の検討を中心に—』

国立特別支援教育総合研究所の刊行物として、上記資料が出ています。
 研究所の Web サイト (下記) からダウンロードできます。

http://www.nise.go.jp/kenshuka/josa/kankobutsu/pub_b/b-222_all.pdf

